

令和元年度第2回豊能町総合教育会議 会議録

日 時：令和2年1月8日（水） 午後1時～午後2時35分

場 所：豊能町役場 2階大会議室

出席者：構成員 塩川恒敏町長（議長） 森田雅彦教育長 宮崎純光教育長職務代理

太田佳子委員 川村新委員 岸本恵子委員 坂口敏子委員

出席者 池上副町長 八木教育次長 内野教育支援課長

田家子ども育成課長 中谷生涯学習課長

事務局 内田総務部長 小嶋秘書政策課長 黒田秘書政策課主任

傍聴希望者：10名

会議次第

1. 議長（町長）あいさつ

2. 議題

- ・豊能町教育大綱について
- ・豊能町の教育施策について

3. その他

開会 午後1時

議長（町長）

これより令和元年度第2回豊能町総合教育会議を開催する。

豊能町総合教育会議設置要綱第4条第1項において町長が議長となると定められており、その規定に従って進める。

なお、事前に受付をしている傍聴希望者は10名である。

豊能町総合教育会議公開要領第3条第1項第2号の規定に基づき、入場を許可する。

《傍聴者入場》

議長（町長）

議事に先立ち、まずは資料の確認を事務局からお願いする。

事務局

《資料の確認》

議長（町長）

それでは次第に従い議事を進める。

議題１の「豊能町教育大綱」について、前回の総合教育会議の議論を踏まえて改定案を作成した。まずは、資料の説明を事務局から願います。

事務局

《資料の説明》

議長（町長）

それでは改定案について教育委員の皆様の意見を承りたい。

委 員

改定案の□3について、同じ内容が重複していると思うので、２行目から３行目にかけたの「整備するため、保幼小中一貫教育を推進します。」を「整備します。」としたらよいのではないか。

委 員（教育長）

表題にも「保幼小中一貫教育の実現」とあるので、委員からの意見のとおり修正しても十分意味が通じるのでよいと思う。

議長（町長）

確かに重複している部分もあるので、修正する。他に意見はないか。

委 員

教育大綱の公表はいつなのか。

議長（町長）

速やかに改定の手続きを行い、公表をしたうえで保護者説明会に臨みたい。

委 員

再度確認だが、今日の議論を踏まえて修正を行ったものを正式な教育大綱として保護者説明会に臨むということか。

議長（町長）

先程までの議論の中で文言の修正もあったので、そのあたりを修正したものを作成する。そして、委員の皆様にも確認していただき、教育大綱の改定を行う。保護者説明会においても改定後の教育大綱について説明する。

それでは、次の議題に移る。まずは、私から説明する。

未来を担う子どもたちの教育環境の充実について、昨年皆様と先進地視察などを含めて意見交換をして、それぞれのメリット、デメリットも含めて目指すべき方向性を議論した。私は所信表明でも東西に学校を配置すると述べたので、そのメリット、デメリットを検討するために、「東西にそれぞれ小中一貫校を設置する場合の課題とその方策（報告）」を示していただいた。どちらにも良い面、悪い面があるので保護者説明会では丁寧に説明をして、最良の環境を整えることが町長部局として一番必要だと考えている。

特に地域とともにある学校づくりが求められており、子どもや地域の方々にとって負担の少ない形でメリット、デメリットを整理しながら進めていくべきだとあらためて決意した。

そのあたりも踏まえて、ここで町の現状について説明する。

《プロジェクターを利用した説明》

それでは、今後の説明会での説明の仕方、日程などを教育委員会から願います。

教育委員会

《資料の説明》

議長（町長）

それでは今の説明を踏まえて教育委員の皆様の意見を承りたい。

委員（教育長）

これまで半年にわたり東地区、西地区それぞれに小中一貫校を設置したときの課題、またその対応策について、時には町長、副町長とも一緒に意見交換、議論を進めてきた。その中で、1小1中、2小2中のどちらにもメリット、デメリットがあり、その対応策についても検討してきた。町長が2小2中を選択され、その理由の説明があった。教育委員会でも話をしてきたが、豊能町の子どもたちにとって、これまで各学校で培ってきたことを大切にしながら、これからどのような教育を進めていくかということでグランドデザインを現在検討している。その

中で二つの柱がある。一つは「保幼小中一貫教育」、これは平成２８年度から進めてきた。もう一つの柱として、保幼小中一貫教育をさらに進めていくためには、「地域とともにある学校づくり」が絶対に必要だと考えている。地域の皆さん、保護者の皆さん、学校が一体となって協働で子どもたちのことを考えていくことが大切であり、その際に歩いて通える場所に学校があることが、地域の皆さん、保護者の皆さんにとっても負担が少ないということは大きな要素だと考えている。

議長（町長）

地域の方々と一緒にまちづくりも学校づくりも進めていくことが非常に重要である。また、それらを推進することが大変であることも事実。まちづくりに関しても、いろいろな方々に協力いただかないと未来に向けたまちづくりができない。それらを踏まえて学校とともに、地域の方々と上手くマッチングしてさらなる効果が得られるような形をとらないといけない。そのような観点で万全の力を発揮できるような形で取り組むべきだと考えている。そして先生方も含めて議論を深めていく必要がある。

委員

地域の方々の負担が大きくならないように、歩いて通える範囲に学校を設置するとのことだが、東地区と西地区どちらにも学校を設置したとしても実際に地域の方々が学校まで歩いていくことができるのはごく限られた方々だ。いろいろな小中一貫教育を推進している先進地を視察したが、地域の方々がその地域に学校を残すためにとても協力的だったのを見て、果たして豊能町でそこまでできるのかと不安になったところもある。その点、２小２中にしたら地域の方々の負担が少なくなるよりは、いろいろな方の協力を得るためには東地区の人数が少ない中で東地区の方々からの協力を得るだけではなく、西も東も一緒になった中でたくさんの方々からの協力を得る方が子どもたちにとってはプラスになると思う。

議長（町長）

まず移動の件に関しては、１小１中であろうが２小２中であろうが、現在でも学校までの距離が遠い方はいる。その点に関して、条件は同じだが、そのあたりは今後考えていかないといけない。早い段階で学校運営協議会を開いて、現在から将来のことを含めて議論しながら、課題解決をしたい。また、地域の特性に関して、これから求められることは「地域とともに」であり、少子化に伴って小規模校となるのは免れない事実なので、その中で子どもたちとの接触はとても重要である。また、子どもたちが今後の人生を自ら切り開いていくためにはコミュニケーションが大切であり、多世代の方々と話をして様々な考え方を学んだうえで、

自分で考え、自分で行動することが必要となる。これは1小1中でも2小2中でも同じことだが、2小2中の場合は東西間の交流をもっと盛んにしないといけない。その点においては、2小2中の場合はそれぞれの交流の機会も増えて、交流のポイントや課題も出てくるだろう。ただ、先ほど委員からご意見いただいたように、学校をサポートする仕組みづくりについてはコンセンサスを得ながら進めていかないといけない。私にとって初めてのことなので不安もあるが、その反面、豊能町を何とかしたいと思ってくださる方々がたくさんおり、今はそれぞれが点という形で存在しているので、適切にマッチングをしてつながりを広げていけば、私は実現できると考えているし、していかなければならない。もちろん、一挙に進めることはできないとしても、豊能町全体で盛り上げて進めていくべきと決意した。また、やってみないとわからない部分もあるが、課題をしっかり克服できるように進めていくべき。

委 員

以前から人口増加策や子育て世代を増やさないといけないとは聞いている。ただ、具体的な部分がなかなか見えない。人口増加策は日本全体の問題なので、豊能町だけでは見えない部分もあるだろう。その中で、昨年の東地区の出生数が気になっていて、どんどん減っていくのではないかと心配している。豊能町の財政は住民としてもかなり厳しいと感じており、2小2中となった場合、これを運営していくことが財政的に持ちこたえられるのかがどうしても心配である。教育の格差が発生しないようにするためには、それなりに予算も必要になる。そのあたりの心配がなかなか拭えない。メリットを最大に活かすとしても、どのメリットを最大に活かすのか、具体的な説明を聞きたい。住民の方々も保護者説明会でそのあたりは聞きたいと思うので、具体的な話がないと判断しにくいのではないかな。

議長（町長）

人口増加策が見えてこない点について、すぐには進められないのは事実だが、もちろん今までも努力しており、チャンスが到来しているという部分もある。そのあたりも踏まえてスケジュールを決めることが必要。

今年度から総合まちづくり計画を策定しており、令和3年度には、これから10年先を見据えた計画を策定する。その策定にあたりまちの存続を踏まえると東西に分けて、またはトータルで考えた人口増加策や、土地利用、企業誘致など、いろいろな施策をこの計画に入れ込まないといけない。その中で、チャンスとして今年は東京オリンピック・パラリンピックが開催される。また、一つのキーとして、将来にわたる大阪の発展の面では2025年の大阪万博、ここまでを踏まえたロードマップがあり、そこで豊能町として人口流入策やインバウンド効果も

含めてどのように進めていくかを大阪府とも協議をしている。

また、2023年には北大阪急行が延伸されることにより交通の利便性が高まる。このようなチャンスを踏まえてしっかり着地できるように計画の策定を進めている。西地区、東地区においてはそれぞれに課題があり、また攻めていく部分もある。全体的には企業誘致などで、東地区においては企業誘致、医療体制の整備、公共交通の面など様々な対策が必要であり、現在も売り込みをしている。西地区に関しては、観光の振興や交流人口の増加策のために妙見口駅前の活性化、廃校を利用した企業誘致を今から進めていく必要がある。そこで雇用を確保して、子育て世代が豊能町に住んでもらえる環境の整備を現在検討している。本来であれば企業誘致などの具体例を示すことができればよいが、そこまでには至っていない。このあたりのスケジュールと各地域でのポイントをしっかりと詰めながら進めていく。人口の増加はマクロ的に見ても難しいが、減少を極力抑えることと、豊中市、茨木市などの近隣市町村では、人口の増加により子育て層が住みにくい状況であり、その方々を豊能町に引っ張り込むために、魅力ある学校、魅力ある豊能町をどれだけPRできるかが大切だ。

また、厳しい財政状況を見据える必要がある。これまでは新築という計画もあったが、今は既存の施設を最大限に利用しながらトータルのコストは下げていくなど、様々なシミュレーションを行っている。予算面に関して、一番注視しなければならないのは、国からの補助金である。財政措置として補助金がどのくらいの学校を作り上げるかによって変わってくる。補助率は基本設計を具体的に示さないと決まらないため、今は施設一体型の小中一貫校を作る場合でシミュレーションをしており、そのために来年度予算案では基本設計の委託料を計上している。そこで具体的な設計ができ上がると補助率も決まる。今日の段階で2小2中で大丈夫かという議論ではなくて、トータルの予算の中で進める。ただ、子どもたちにとって教育環境がおろそかになるということはないようにする。その部分においては今後も皆様と協力しながら進めていきたいと考えている。

委 員

今は具体的なことが出せないことは分かったが、説明会に臨む際には出生数のデータなどは資料として持ち、数年先にはどのくらいの規模の学校になるかをデータとして挙げて欲しい。昨年の東地区の出生数は10人程度だった。ということは、5年後に1年生となるのは10人程度である。そこから数年後には中学校も同じ人数となることが想定されるということも含めて示して欲しい。

議長（町長）

分かった。あとは説明の方法として教育委員会事務局としても丁寧な説明のた

めに、パワーポイントなども利用して資料を作成する。現在作成中なので、今日示すことはできないが、いろいろな形のシミュレーションを行い提案ができるように準備を進める。他に意見はないか。

委 員

2小2中にしたときには住民の負担もあると先程町長も話していた。その中身について、具体的には財政面になるが、以前の意見交換では何らかの住民サービスを減らすことも考えなければならないと話していた。現在は、国からの補助率などの関係で財政面のことは分からないとのことだが、事業が進んでからの説明では遅いので、ある程度のことは想定したうえで事前に説明して欲しい。京都大原学院の視察では、学校を残すために大原の自治会費が値上げになったと聞いて、地域の協力を得られる所だと感じた。豊能町でも大原と同じことが起こりうる可能性があることを理解したうえで2小2中を望んでいるのかということも確認して欲しい。住民にこれらの事実を示したうえで説明会をして欲しい。

議長（町長）

人数はもちろん示す。前回意見交換をした際には豊能町の財政面における総論として、税収が減少している現状でこれまでの住民サービスを見直すことも含めて厳しい話をしたが、投資すべき事業には投資しないといけなく考えている。学校のことについては、10年先、20年先まで見越して財政推計をしており、どの規模まで実施できるのかをシミュレーションしている。その際に一番の問題となるのは、補助率である。要は町の負担がどこまで抑えられるかである。補助対象になる、ならないところが確定できていない部分もあるが、シミュレーションをしている。

教育委員会事務局、財政部局、建設部局で議論し、経費がどのくらいになるのかをシミュレーションした内容について教育委員会から説明をお願いする。

教育委員会

教育委員会が算出した概算では、東西合わせた総額で約35億から50億である。東地区、西地区それぞれに学校を残す場合、最もふさわしい案では東地区で15億、西地区では35億と計算しているが、この案では財政的にもなかなか厳しいということで修正案も考えている。子どもたちには環境面で負担をかけない前提でいくつかの案があり、それらを含めて総額35億円から50億円の間で想定している。

事務局 教育委員会から総額35億円から50億円で考えているとの説明があり、また

先程、町長からシミュレーションの説明があったが、財政部局としては３５億円のパターンや５０億円のパターンでそれぞれ考えている。ただ、これも先程から町長が何回も話しているとおりの国の補助金によるということである。たとえば３５億円のうち１５億円が補助金であれば、町で残りの２０億円の工面が必要となる。また、５０億円のうち２５億円が補助金であれば、町で残りの２５億円の工面が必要となるため、町でどれだけの金額の工面が必要となるかは補助金に大きく左右される。今のところ、はっきりとここまでなら大丈夫とは言えない段階である。まずは基本設計をして、国に相談をして補助額を算定するところから始める必要がある。

委員

内部でいろいろと話し合っていることはよく分かった。建物を建てたら終わりではなくて、その後の維持費ことを考えると、１校と２校ではかなり差が生じる。備品や教具ももちろんだが、光熱水費にしても一般の家庭とは桁違いの金額が学校では必要となる。また、多くの人件費は府費負担教職員だが、町費で負担する経費も出てくるだろう。今後具体的になったときには、そのあたりも踏まえて決断していくべきである。これでよかったのかという結果を招かないようにして欲しい。この議論に多くの時間が費やしているが、そのために余計に話がややこしくなっている分もたくさんある。もっと早くに決断していたらと思うこともある。子どもの人数や状況を考えると、どんどん待ったなしの状況に近づいている。最終的には町長の考えだけではなく、いろいろなことも含めて判断して欲しい。

議長（町長）

東西両方に学校を残した場合、１小１中にした場合の運営経費はもちろん考えていかないといけない。その部分も含めてシミュレーションをする。設備的な部分で子どもに負担をかけないよう、既存のものを使うために改修することも考えており、両方の面でシミュレーションする。

他に意見はないか。

委員

東地区では子どもの数がだんだん減っており、人口増加も見込めない状況で特に旧村では子どもが本当にいない。どうしてかと考えると、独身が多く結婚していない。結婚したとしても職を求めて町外に出てしまう状態が続いているので、できたら婚活に繋がる事業なども検討して、人口増加に繋げて欲しい。

議長（町長）

昨年吉川で婚活パーティを実施し、たくさんの方が参加された。まちづくりに関しての話になるが、東地区も西地区も雇用が生まれて、個人の収入が上がる施策でないといけない。それと同時に豊能町にお金が落ちる仕組みを作らない限り、まちは持続できない。西地区だと通勤で町外に出て、たとえば梅田や川西近辺でお金を落としている。東地区だと亀岡市や池田市のあたりでお金が落ちている。豊能町の中でお金が落ちる仕組みがないので、それらを踏まえると東西それぞれの地域が活性化できていない。そのために企業誘致、働く場所を作ることが重要である。それについてはしっかり手を打っていく。人口減少に対してカンフル剤はなく、ありとあらゆる手を打っていかないといけない。そして、豊能町で子育てしたいと思ってもらえるような施策と豊かな自然環境を強みとして PR していかないといけない。たとえばマーケティングの手法に SWOT 分析というものがあり、内部環境としての強みや弱み、外部環境としての機会や脅威を関連させてマーケティング戦略が作られる。それらを踏まえたときに逆に豊能町の弱みの部分を強みに変える手法を進める必要がある。

他に意見はないか。

委員

能勢町のささゆり学園では1小1中となり、スクールバスによる通学となったことで予想していたよりも体力の低下が進んでいることが新聞に掲載されていた。地域とともに学校があることはよいことだと思う。しかし、教育大綱の適正な教育環境という部分において、町長と我々教育委員の考えが合致していないと感じる。町長の仕事としては、まちづくりという視点から、教育を核としたまちづくりがあり、そのためには東西に学校がないといけないというもの。我々は教育の段差をなくすためにも、子どもたちに同じ教育環境を提供したい。その点で違いが生じている。将来、東地区で子どもの数が減少し、複式学級となった場合にも1小1中にしないのか。しないのであれば、財政的にもかなり負担が大きいと感じる。方向性としてあり得るのは、たとえば東地区の規模が現在と比べてもっと小さくなり、一方で西地区は現状維持または微増というパターン、そしてもう一つは東地区も西地区も規模が小さくなり、極小規模の小学校が2校になるパターンが考えられる。このようなケースだと東地区と西地区で生活環境などが異なることもあり、教育を中心としたまちづくりを進めると同じ教育環境を提供することが難しい。また、東地区では子どもの数が増加し、西地区は現状維持あるいは増加というのが理想のパターンだとは思いますが全国的に人口が減少しているため、ありえないと思われる。そのため、東西で同じ教育環境を提供することがどんどん難しくなることを懸念しており、その点が町長と合致していない。また、先程

の人口増加策の話のなかで今後10年間にチャンスがあるとのことだったが、新たに学校を建設するのであれば、30年先を見据えないといけない。まちづくりという視点で東西それぞれに学校を残すと、教育の環境は別となり西地区は西地区の教育、東地区は東地区の教育となってしまうのが心配である。無理やりにでも合わすこととなれば努力するが、そうすると東西の交流のためにバスを走らせる、先生の交流などが必要となる。また、費用面はあまり考慮したくはないが、物理的に距離が離れているのでどうしても財政面の負担も大きくなる。このようにトータルで考えると意見は合致していないが、教育大綱における「適正な教育環境を整備します」という文言については私はよいと考えている。ただ、適正な教育環境をまちづくり主体で捉えるのか、教育の段差をなくす視点で捉えるのかで方向性が違っているのかなと感じている。

委員（教育長）

教育環境の話があったが、私は以前に大阪府教育委員会の教職員人事を担当していた経験も踏まえて少し説明したい。まず、東地区の子どもの数が減少したら先生の数も減少する、そして今と同じ教育ができなくなるという説明がいろいろなところでされているが、それは教育委員会会議の中で検討する中でそうではないことを説明した。先生の手数は学級数で決まるものである。例えば東能勢小学校では6学級なので先生は何人という形で決まる。子どもの数が減少しても先生の手数は変わらない。教え方や教える内容については、東西それぞれに学校を配置したとしても全く変わらない。複式学級の話があったが、小学校1年生と2年生を併せて8人以下となれば複式学級と呼ばれる。他の学年は2学年併せて16人以下であり、この基準は中学生も同じである。ただ、大阪府の場合は複式学級になったとしても、単式学級維持という、小規模になっても先生は配置しようという制度がある。私の経験では、児童数が4人になっても校長先生、教頭先生併せて8人が配置された。このように、子どもの数が減少したからといって教育の中身が変わるとか、先生の手数が変わるということはない。

1小1中、2小2中の両方にいろいろなメリット、デメリットがある。そのため我々は先進地視察や意見交換などを行ってきた。そのなかで、豊能町の学校を見たときにほとんどの小学校は既に小規模化されている。光風台小学校の5年生を除いては、今の段階で1学年につき1クラスであり、クラス替えができない状況である。その状況が続くことに対して、教育委員会として行政としてどうしていくのか、とりわけ子どもたちの人間関係の固定化を少しでも和らげるために、地域の方々や保護者の方々に学校に入ってもらふことやスクールサポーターを導入していく、あるいは小学校だけの再編を考えたりといろいろなことを考えていかなければならない。例え2小2中にしたとしても同じことである。1小1中

としてもこのままの推移で子どもの数が減少していけば、1 学年 1 学級になる時期がいずれ訪れる。そうであれば、町長が話したように、東西それぞれに学校を配置すると、スクールバス通学による体力の低下など、子どもたちへの負担は避けることができる。経費の面でも 2 校であれば多くかかるが、スクールバスの経費もかなりの額となる。前の職場ではそのことが一番大きな問題にもなった。今のうちに、町長が変わっても、教育長が変わっても、校長が変わっても子どもたちをみんなで支えるシステムを整備する必要がある。

委 員

そうであれば、東西にそれぞれ学校を残して極小規模となってもやっていけるような学校づくりになると思う。我々には建物を建てる権限はなく、教育内容についてもそのような目線で考えていくということか。

議長（町長）

2 小 2 中にすると教育内容に格差が生じるということだが、学校が 2 校でも 1 校でも教育内容を同じにするという前提条件であるので、その点でベクトルが合っていないというのは私の認識とは違う。教育内容を同じにするのがベースであるが、手法論として新築にするのか現在の校舎をそのまま使うのか、またその他の部分との関係もある。まずは教育内容は同じにするというのが 1 点、そして今までの話の中では小規模校となった時に学力が低下するとか、加配が得られないとか、複式学級になった時に大変なことになるということだが、その点については、確認すると今までの説明とは少し違っていた。現在全国にある小規模校が特色を活かしており、どれだけ豊能町にとって特色のある学校を 2 つ作っていくかが重要なので、その方向で進めたい。

委 員

教育大綱の話なので文言については特に異論はない。せっかくの機会なので話すが、学校を極小規模にして進めていくのであれば、西地区では学校が 4 校あり、今現在で極小規模の学校もあるので、それぞれをそのまま極小規模にしていけると試すことも可能だと思う。無茶苦茶なことを話しているかもしれないが、そこでわざわざ一つにするというところも理屈としてあやふやになってくる気がする。一度一つにまとめて児童数を増やしてまた極小規模に向かっていくことになる。教員の数が増えるという点は、あまり気にしていない。今の学校をこのまますべて極小規模にしたとして、教育内容に差がないのかということそうではない。

委 員

教員の人数について、小学校に関しては教育長の話したとおりだが、中学校に関しては2クラス以上の学年もある。そこに配置されている教員の人数は各学年1クラスになった際には変わってくる。そうすると、時間講師ばかりが増えてくるので厳しい状況になるだろう。小学校に関しては定数が変わらないのはそのとおりだが、中学校に関しては現状と今後各学年1クラスになったときとは定数が違って来る。そのあたりをどう考えるのか。学校運営で考えたときに正規採用で始業から終業まで学校にいてくれる教員が何人いるのかは大切に、時間講師が増えていくと学校運営は難しくなるという現実は見過ごせない。それと、どちらの学校でも同じ条件の教育をしたら、同じ結果には決してならない。2校残すのであれば結果として同じ状況に持っていけるように、西は西のデメリット、東は東のデメリットを考えながら、その学校の特色あるものを作っていないと同じ状況には持っていけない。教育は同じことをしたら同じ結果になるものではなくて、何が足りないのかをしっかりと見据えていく必要がある。豊能町は全体的にも小学校の学力は下がっている事実があるので、それに対して今までと同じことをしていたのではいけないとこれまでも話してきた。これからそれぞれ何に力を入れていくべきなのか、先生と一緒に学校の中で考えることとなる。何が言いたいかというと、同じ教育という町長の言葉に引っかかかっていて、同じものを与えたら同じ結果になるのではなく、豊能町として同じ結果が生まれてくるようにしていけないといけない。

教育委員会

教員の人数について、整理する。教員の数は変わらないという点については、教育長、委員の話のとおりだが、説明会の中で話したのは教員の数というよりも加配の数が減ることは今後考えられるということである。また、中学校では2クラスの学年があり、それに対して教員の配当があることについて、現在、教員の数は国の基準では全学年1クラスという形での割当しかない。ただし、子どもたちのために教員が2クラスに分けて少ない人数の中で努力をしてクラスを作っている状況である。その中でも正規の加配以外に大阪府の加配、町単費の加配で何とか運用しているのが現状である。来年度以降については、初任者が東能勢中学校におり、教科は社会科であるが、このままだと東能勢中学校の社会科を一人で教えることとなる。中学校の場合、担任を持つとなると全学年の授業を担当するとなかなか難しいので、もう一人教員をプラスしないといけない現状が差し迫っている。今後子ども的人数が減少しても国からの定数が変わらなければ、同じ状況となる。これから若い教員が増えることを想定すると、学校のハード面だけではなく、ソフト面として教員の数をしっかりと考えていけないといけないのが事実である。

議長（町長）

それぞれに関していろいろな状況があり、克服しないといけない点、これが今までの議論の中でかなり明確になって、我々として何をしていくべきなのかも明確になってきた。具体的なものを示しながら、本当に必要なものをしっかり進めていくことが大切である。委員が話した、教育の基礎的なものはイコールだが、やはり場所によって、最終的には特色の部分で違いは出てくると思われるが、基本的な学力面などは目指す姿は一緒にしていけないといけないということが我々に課せられた課題である。それから、極小規模にさせないためにどうするかということが我々の仕事である。極小規模になった時は、豊能町の人口自身がさらに減少して自立もできない状態であると思われる。全国どの自治体も財政面が厳しい中、いろいろと工夫をしながら発展している自治体もあるので、そのあたりも見習いながら進めていけないといけない。極小になるのではなく、極小にしないために、今の特色のあるものを活かして成果が得られるような形にできるよう邁進していきたいので、ご協力願いたい。

他に意見はないか。

委 員

同じ教育をして同じ結果が得られないというのは、現実を目の前にして現実合った対応をしないといけないということだと思うが、2小2中にするにあたって、住民もいろいろな立場の方がいる。話を聞く場所、対象によっても違ってくるだろう。町長になる前に住民の意見しっかり聞いてと話していたので、ぜひいろいろな住民と意見を交換できるように呼びかけをして説明会に臨んで欲しい。私が聞くには、2小2中がいい方も1小1中がいい方もどちらもいる。どうして1小1中がいいのか聞いたところ、なるほどと思うところもある。私自身、地域住民のときは東地区に学校を残してほしいと思っていたが、教育委員となり教育的なことをいろいろ聞く中で意見が変わってきた。そういうことがあるので、住民の意見をいろいろな立場から吸い上げられるような呼びかけをして説明会に臨めるようにして欲しい。

議長（町長）

そのとおりである。丁寧な説明をして、それぞれの意見が違うのは生活環境も含めて当然のことなので、それを切り捨てるのではなく、今回の保護者説明会においてもしっかりと丁寧な説明をして、それぞれのメリット、デメリットを共有できるようにしないといけない。特に基礎的な部分はイコールでないと判断してもらえない部分もある。我々に一番求められている部分は丁寧な説明をしていく

ことであり、意見を聞くことである。そして、それに対して意見交換をする形はしっかりとる。現在は2回だが、もちろんテーマごとだとか、それぞれの地域ごとの喫緊の課題などもたくさん出てくると思われる。これから一年先、二年先の短いスパンの部分とその先のことも出てくるだろう。そのような部分については、やはりテーマごとに進めるとか、学校運営協議会ができあがってからその中で進めていく部分もあると思われる。丁寧な説明をして、一緒に方向性を出していけるようにしっかりと進めていく。

委 員

もう少しだけ言わせてほしい。日々の教育現場にいるのは子どもたちと先生である。いくら地域が一緒にやってみましょうと、行政がこんな形でやってみましょうとなっても、日々を過ごしている子どもたちや先生がどう感じるかが大切であり、しんどくならないようにして欲しいし、子どもたちや先生方かどう感じているかをこちらでも把握できるような聞き方をして欲しい。

議長（町長）

その点については、教育委員会も含めて十分に分かっているのももちろんそのような形で進める。

他に意見はないか。

委 員

意見なし

議長（町長）

それでは、案件はすべて終了したので、閉会とする。

《閉会 午後2時37分》